

## 「地域包括ケアシステム」に向けた保養会の取り組み

医療法人財団保養会 理事長 堀内 英夫



当施設は、昭和 18 年に沖電気（株）・日本鋼管（株）並びに日本鑄造（株）の社員のための結核療養所として発足しましたが、昭和 36 年に医療法人財団（当時の名称：保養園）として発足し、東日本大震災の発生した平成 23 年 8 月に創立 50 周年を迎えました。また、平成 10 年 2 月に開設した「老健たけおか」は、来年開設 20 年を迎えます。

「竹丘病院・老健たけおか」が高齢者医療に取り組んで 30 年以上になります。高齢化の進むこの地域において、また、団塊の世代が後期高齢者の仲間入りする 2025 年を目途に進められている「地域包括ケアシステム」は、これまで以上に私どもに課せられる責任が大きくなるものと考えています。

「地域包括ケアシステム」は医療と介護の連携により、施設（病院・老健等）から住み慣れた在宅への復帰を進めることを目指します。その実現のためには、地域の医療・介護の諸施設間の連携が必要です。

近年、在宅療養される方に必要な訪問診療は、地域の診療所がその役割を担っていますが、高齢者医療を担う病院も地域の諸施設と連携しながら多職種協働してその役割を担う必要があると考えています。

在宅療養されている方々は、ADL（日常生活動作）の維持・改善が大切であり、老健の「通所リハビリ」・「訪問リハビリ」・「ショートステイ」を通じて ADL の維持・改善のご支援を致します。

そのためには、ご利用者の ADL 状態について「施設サービス計画書」をもとに、サービス内容についてもモニタリングを実施し、併せて障害高齢者や認知症高齢者の日常生活自立度を判定し、変化をみること等により定期的に評価し、リハビリ（身体リハビリ、生活リハビリ）の提供を通じてご自宅での生活のご支援をさせていただきます。

医療・介護サービスに関するご質問等がありましたら、病院の「医療連携室」老健の「支援相談室」にご相談ください。